

創世記9章「『新世界』に向けた神の指示」

最初に、創世記9章を読みましょう。

9:1 それで、神はノアと、その息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地に満ちよ。 9:2 野の獣、空の鳥、——地の上を動くすべてのもの——それに海の魚、これらすべてはあなたがたを恐れておののこう。わたしはこれらをあなたがたにゆだねている。 9:3 生きて動いているものはみな、あなたがたの食物である。緑の草と同じように、すべてのものをあなたがたに与えた。 9:4 しかし、肉は、そのいのちである血のあるままで食べてはならない。 9:5 わたしはあなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する。わたしはどんな獣にでも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。 9:6 人の血を流す者は、人によって、血を流される。神は人を神のかたちにお造りになったから。 9:7 あなたがたは生めよ。ふえよ。地に群がり、地にふえよ。」 9:8 神はノアと、彼といっしょにいる息子たちに告げて仰せられた。 9:9 「さあ、わたしはわたしの契約を立てよう。あなたがたと、そしてあなたがたの後の子孫と。 9:10 また、あなたがたといっしょにいるすべての生き物と。鳥、家畜、それにあなたがたといっしょにいるすべての野の獣、箱舟から出て来たすべてのもの、地のすべての生き物と。 9:11 わたしはあなたがたと契約を立てる。すべて肉なるものは、もはや大洪水の水では断ち切られない。もはや大洪水が地を滅ぼすようなことはない。」 9:12 さらに神は仰せられた。「わたしとあなたがた、およびあなたがたといっしょにいるすべての生き物との間に、わたしが代々永遠にわたって結ぶ契約のしるしは、これである。 9:13 わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それはわたしと地との間の契約のしるしとなる。 9:14 わたしが地の上に雲を起こすとき、虹が雲の中に現れる。 9:15 わたしは、わたしとあなたがたとの間、およびすべて肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い出すから、大水は、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水とは決してならない。 9:16 虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、神と、すべての生き物、地上のすべて肉なるものとの間の永遠の契約を思い出そう。」 9:17 こうして神はノアに仰せられた。「これが、わたしと、地上のすべての肉なるものとの間に立てた契約のしるしである。」 9:18 箱舟から出て来たノアの息子たちは、セム、ハム、ヤペテであった。ハムはカナン之父である。 9:19 この三人がノアの息子で、彼らから全世界の民は分かれ出た。 9:20 さて、ノアは、ぶどう畑を作り始めた農夫であった。 9:21 ノアはぶどう酒を飲んで酔い、天幕の中で裸になっていた。 9:22 カナン之父ハムは、父の裸を見て、外にいるふたりの兄弟に告げた。 9:23 それでセムとヤペテは着物を取って、自分たちふたりの肩に掛け、うしろ向きに歩いて行って、父の裸をおおった。彼らは顔をそむけて、父の裸を見なかった。 9:24 ノアが酔いからさめ、末の息子が自分にしたことを知って、 9:25 言った。「のろわれよ。カナン。兄弟たちのしもべらのしもべとなれ。」 9:26 また言った。「ほめたたえよ。セムの神、【主】を。カナンは彼らのしもべとなれ。 9:27 神がヤペテを広げ、セムの天幕に住まわせるように。カナンは彼らのしもべとなれ。」 9:28 ノアは大洪水の後、三百五十年生きた。 9:29 ノアの一生は九百五十年であった。こうして彼は死んだ。

導入

先週学んだ箇所は、世界規模の洪水というドラマチックな話でした。洪水が起こった理由は、神のお造りになった天使と人間との悪でした。

創世記6：5-8は、次のように語ります。

6:5 【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのご覧になった。 6:6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められ

た。6:7そして【主】は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」6:8しかし、ノアは、【主】の心にながっていた。

神は、人の悪を見て、地上全体を破壊されました。しかし、ノアと家族だけはお救いになりました。それは、ノアが神とともに歩む正しい人だったからです。神は、ノアに「恵み」をもって応えてくださいました。ノアは神の言いつけに従って箱舟を作りました。自分の家族と、当時地上にいたすべての動物を一對ずつ収容するためです。

箱舟の中で一年以上暮らした後、神はノアと家族、そして動物たちを外に導かれました。外に出てノアがまずしたことは、祭壇を築いて、すべてのきよい動物から神にいけにえをささげることでした。ノアは、罪が赦されるために神が要求されるものが何であるか知っていたのででしょう。動物の死は、人間の罪をあがなう身代わりのいけにえとなりました。いけにえの動物は、人の代わりに死んだのです。動物の血が、人の罪を覆う役割を果たしました。神はもはや人の罪をご覧にはなりません。血が罪を覆うので、神が人をご覧になると、その御目には義と映るのです。

今日は9章を学びます。これは新世界の始まりです。動物以外には、ノアと家族だけがこの新世界の住人でした。

9：1-7で、神はノアに5つの指示を出されます。

1. 神がノアにお与えになった5つの指示 (9：1-7)

a) 生めよ。ふえよ。地に満ちよ。(1節)

洪水の後の地上を再び多くの人間で満たすのはノアの3人の息子たちの役割でした。現在、世界の総人口は70億人を超えていますが、地上を再び満たすのはたった3人の男性から始まりました。創世記1：28で、神はアダムとエバに同じ指示をなさいました。今度は、ノアと3人の息子たちにこの指示を出されました。

b) 神は、動物たちが人間を恐れるようになさった。(2節)

創世記1章で神がお造りになった世界と、創世記9章に描かれた世界には、大きな違いがあります。神が最初に作られた世界では、神のお造りになったすべてのものが良い状態でした。創世記1：25には、神が動物たちをお造りになり、それを見てよしとされたことと記されています。その当時、人間と動物の間には、完全な和がありました。

しかし、今度は神が動物の中に人間に対する恐れを組み込まれました。「恐れ」と訳された原語のヘブル語には、非常に強い意味合いがあります。

この単語は、恐怖とか傷心を意味します。人が今後地上で生き残っていくためには、地上の動物や鳥たちが人間を恐れるのが一番良いと神が判断されたのです。これにはふたつの利点がありました。恐竜や猛獣などの大きくて獰猛な動物から人間が守られることと、動物が人間から守られることでした。

皆さんの中で、蛇が嫌いな人はいますか。

手を挙げてくださいとお願いしたら、多くの人が手を挙げるでしょう。けれども、蛇は怖いという人は手を挙げてくださいとお願いしても、きっとたくさんの方が挙がるでしょう。

皆さん、今日から蛇を怖がる必要はありません。神は、蛇に人間を恐れる心を与えられました。蛇を踏んだら噛まれるので踏まないように気をつけなければなりません。もし毒蛇だったら、すぐに病院に行く必要があります。

蛇のいそうな場所を歩くときは、大きな音をたてることと頑丈な長靴をはくことを守れば大丈夫です。人間の気配を感じると、蛇はすぐに逃げていきます。それは、神が蛇に人間を恐れる心を与えてくださったからです。

家畜はここに記されていません。人が扱いやすく、乳や肉といった栄養源となるからでしょうか。

この個所に記された神のみことばが真理であることは、お腹を空かせていない限り獣が人の住む場所を避けることから明らかです。どんなに強い獣でも、人間の存在を恐れています。人が近づくとを極端に恐れます。

2節の最後には「わたしはこれらをあなたがたにゆだねている。」と記されています。

c) 神は、肉食をお許しになったが、菜食のままでよい。(3節)

人類の歴史の中で、この時点までは全員が菜食だったようです。創世記2：16で、善悪の知識の木を除く園のどの木からでも好きに食べてよいと神は人間におっしゃいました。

ここでは、神が人間に、生きて動いているものはすべて食べてよいとおっしゃいます。神はここで、人間と動物との関係を大きく変化させておられます。神は、人が動物を食べることをお許しになりました。この時点では、食用におけるきよい動物と汚れた動物の区別はありませんでした。それは、後に示されます。

神は、人間が菜食をやめるよう命じておられるわけではありません。植物と同様に動物も食べてよしとすることで選択肢を増やしておられるだけです。

3節の後半「緑の草と同じように、すべてのものをあなたがたに与えた。」という部分から、もともと世界中の人間が菜食だったことがわかります。

菜食主義の人たちを批判してはいけません。それは、神が人類にもともと与えられたものだからです。同時に、菜食主義の人たちも、肉を食べないという理由で自分たちが霊的に優れていると考えてはいけません。

これは個人の選択の問題であり、各々が決めることです。神の許可の下、私たちには食物について選ぶ自由が与えられています。

ローマ14：1-4には、この問題についてはっきりとした教えが記されています。

14:1 あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。 14:2 何でも食べてよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜よりほかには食べません。 14:3 食べる人は食べない人を侮ってはいけないうし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。神がその人を受け入れてくださったからです。 14:4 あなたはいったいだれなので、他人のしもべをさばくのですか。しもべが立つのも倒れるのも、その主人の心次第です。このしもべは立つのです。なぜなら、主には、彼を立たせることができるからです。

d) 神は、肉と血を一緒に食べてはならないとノアに命じられた。(4節)

動物を食べることについて、たったひとつ制限がありました。それは、動物の血を食べてはいけないというものです。

その理由は、動物のいのちが血にあるからです。

レビ記17：11を読みましょう。

レビ 17:11 なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。

ここで、輸血についてお話したいと思います。

病気やけがの治療や手術で輸血が必要になる場合があります。エホバの証人と呼ばれる異端の教えを受けて育った人は、どんなことがあっても輸血を受けてはならないと教えられています。

彼らの言い分は、輸血を受けたら神のみことばに逆らうことになり、そのことで神の裁きを受けるというものです。

エホバの証人が掲げるこの規律のせいで、この教えに従った多くの人々が、輸血を受ければ助かった状況で命を落としています。

血を食べたり飲んだりすることと輸血とは異なります。輸血で体内に取り入れた血は消化されることなく、そのまま生命維持に必要な要素を含む血液としての役割を果たします。献血するのは、命を助けるためであり、奪うためではありません。

命が救われるのであれば、輸血をすることにまったく問題はありません。ここで輸血は禁じられていません。

e) ここで最後の指示として、神が殺人に対する死刑を制定された。(5-7節)

この個所で、殺人に対する死刑がはっきりと記されています。

それは動物にも人間にも適用されます。人が神のかたちにつくられたことをここで改めて思い起こさせられます。

人が殺されると、唯一無二の存在が破壊されます。ふたつとない命が消し去られるのです。

人を破壊することは、神がご自身に似せて造られたものを破壊することです。これは、創造主に対する侮辱行為です。

信楽の窯元に行って、そこにある焼き物を全部壊したら、それは心ない破壊行為であるだけでなく、作者が創り出した作品を壊すことになります。

それは、作者を侮辱する行為です。

人を破壊するのは、神のかたちを壊すことです。

この指示は、ノアとその息子たち、そしてすべての子孫に向けられたものです。この死刑が無効になったという根拠はどこにもありません。イエス・キリストも地上を歩まれたときに、死刑の正当性を擁護しておられます。

マタイ 15:4 神は『あなたの父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は死刑に処せられる』と言われたのです。

使徒パウロも、死刑を支持していました。

使徒 25:11 もし私が悪いことをして、死罪に当たることをしたのであれば、私は死をのがれようとはしません。しかし、この人たちが私を訴えていることに一つも根拠がないとすれば、だれも私を彼らに引き渡すことはできません。私はカイザルに上訴します。

2. 神がノアと契約を交わされる。(8-17節)

まず、「契約」とは何かを理解する必要があります。

「契約」は、神の約束の中でももっとも重大な内容であることを指します。

この契約は、人間同士の約束や契約とは違います。

「神の契約」は神ご自身から発せられます。神が契約をなされ、その条件を決定し、ご自身の主権のもと、その契約の当事者となります。

9-10節で、神がノアとその子孫とに契約を立てられたとあります。この契約は、すべての生き物にも関わります。

まず私たちが認識しなければならないのは、この契約が今日の私たちにも関わりがあるということです。神の契約はすべての人類に立てられたものです。

11節には、契約の内容が記されています。

9:11 わたしはあなたがたと契約を立てる。すべて肉なるものは、もはや大洪水の水では断ち切られない。もはや大洪水が地を滅ぼすようなことはない。

それ以来、地域的な洪水は起こっていますが、世界規模の洪水というのは起こっていません。

12節で、神のご契約が目に見えるかたちでわかるしるしを与えてくださると神はおっしゃいました。

13-17節には、神が約束されたしるしが紹介されています。それは、虹でした。

虹がどんな姿か覚えておられますか。スクリーンで写真をお見せしましょう。

虹という目に見えるしるしが神の約束を思い起こさせてくれるように、聖餐式でいただくパンとグレープジュースも目に見えるしるしとなって、神の御子イエス・キリストが体を割かれたことと血を流されたことを思い起こさせてくれます。

私たち人間は大切なことでも忘れがちなので、神の約束を思い出させてくれるしるしが必要だということを、神はご存知です。

3. ノアと酒、カナンのかい、セムとヤペテの祝福。(18-29節)

ノアと家族が箱舟を離れてしばらく経ちました。

どれくらいの月日かは定かではありませんが、孫ができるのに十分な時間が経ちました。

ノアは新しい仕事を始めました。農夫となってぶどう畑を作りました。

ここで、正しい人であったノアの唯一の失態が記されています。彼は酒に酔いました。これ以外の時にも酒に酔ったかどうかは記されていません。

ぶどう酒を飲み過ぎて酔ったせいで、彼は天幕の中で裸になっていました。

ハムは父の恥ずかしい姿を見て、二人の兄弟にそのことをしゃべりました。

原語のヘブル語を文字どおり訳すと、ハムは父親が酒に酔ったことを喜んだという意味になります。彼はおそらく反抗的な息子で、父親の正しい躰けや行為を疎ましく思っていたようです。ハムが喜んだのは、父親の失態を目撃して恥をかかせることができたからでしょう。

ハムは父に恥をかかせるのに兄弟も巻きこもうとしました。けれども、そうはなりません。セムとヤペテは父親に敬意を払い、後ろ向きに歩いてノアの姿を見ることなく覆いをかけてあげました。

このことがきっかけで、ノアはハムの息子カナンとその子孫を呪いました。

一方、セムとヤペテを祝福しました。

28-29節には、ノアが950歳で死んだとあります。彼は、新世界で350年間生きました。

では、9章で学んだことを私たちの生活にどのように当てはめればよいでしょう。

適用

1. ノアは、神とともに歩む正しい人でした。しかし、一度犯した過ちが記録されました。これは深刻な過ちではないと私たちは考えるかもしれませんが、神はこの過ちが記録されるようになさいました。なぜでしょう。

それは、神とともに歩んできよい生き方をしている、私たちはサタンからの攻撃に弱い者なので、常に気をつけていなければならない、という警告のためです。

新約聖書のペテロ第一5：8には、このような言葉があります。

I ペテロ 5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

また、コリント第一10：12も警告します。

コリント第一10:12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。

その次の箇所では、誘惑にあったらどのように対処すべきかが記されています。

コリント第一10:13 あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。

私たちはそれぞれ弱点があります。その弱点をサタンは突いてきます。そして、私たちが罪を犯すようにそっと巧みに誘惑をしかけてきます。

例えて言うなら、こういうことです。

あるところに、とても太った女性がいました。彼女はクリームたっぷりのケーキが大好物です。ケーキの食べ過ぎが肥満の原因でした。

ある日、彼女はダイエットをしようと決意しました。まず、クリームケーキはもう絶対に食べないと決心しました。

次の日の朝、彼女はドライブに行こうと思いつきました。

車に乗ってドライブしていると、町に無料駐車場があったので、そこに車を止めました。

そこは、クリームケーキショップのすぐ隣の駐車場でした。彼女は自分が食べるためにはケーキを買わないと自分に言い聞かせましたが、隣の家の人におみやげを買っていくことにしました。隣の家の人はスタイルが良く健康的でした。その人へのおみやげにクリームケーキを買って、車で帰りました。

隣の家に到着し、チャイムを何度か鳴らしてみましたが応答はありません。どうも外出中のようです。

その日は暑かったので、車の中にあるケーキのクリームは溶けてしまいそうです。ケーキを捨てるのはもったいない、と思った彼女は、結局自分でケーキを食べてしまいました。

これは、ダイエットがどれだけたいへんか、とか、減量のために好きな食べ物を食べないのがどれだけつらいか、という話ではありません。

この話の要点は、サタンが私たちに罪を犯させようとする中で、最初から誘惑をしかけてくることが多いということです。

この女性がいつの時点でクリームケーキを食べるといふ誘惑を受けたか、と尋ねたら、皆さんは、隣の家の人が出かけていたとき、と答えるでしょう。ケーキを捨てるのはもったいないという理由です。

しかし、そうではありません。この女性は朝にドライブに行こうと思いついた時点で誘惑を受けていたのです。

サタンは、家にクリームケーキがないので、まず買わなければならないことを知っています。

そこで、この女性がクリームケーキを拒絶できないところまで徐々におびき寄せたのです。

私たちは、誘惑の小さな兆しがあるたびに、サタンに抵抗しなければなりません。

こういうわけで、アルコール依存症になったことのある人は、すでに立ち直っていても少しも飲まないようにと言われるのです。アルコール依存歴のある人は、一滴でも飲んでしまうと、磁石のように酒に引き寄せられてしまうからです。

ですから、弱点がどんなことであれ、早い時点で誘惑に立ち向かわなければなりません。サタンが私たちに誘惑しようとする策略の第一段階で立ち向かわないでいると、次の段階に進んでしまえばすでに負けです。

多くの場合、サタンが私たちの思いに働くことで誘惑が起こります。私たちは、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させなければなりません。

これは、コリント第二10：5でパウロが語るアドバイスです。

最大の戦いは、思考の中で起こる戦いです。神の助けを得て、誘惑を受けたら早い時点で対処して戦いに勝つことができますように。

2. 次の適用ポイントは、ひとつめのポイントと関連しています。

9章で、ハムはノアの罪を他の人にさらそうとしました。誰にも言わずに、裸の父親に覆いをかぶせることもできたのに、父親が罪を犯していい気味だとほくそ笑みました。ハムは父親を敬っていませんでした。

箴言14：9は、愚か者が罪をあざけると語ります。

これは、他人の罪を暴露したり騒ぎ立てたりするのは良くないという意味です。罪を犯した人のために祈るのは良いですが、罪を犯した人の過ちを言いふらしてはいけません。

残念ながら、ほとんどの国では新聞で人の罪を暴露し、騒ぎ立てます。そのような内容を書けば、新聞が売れるというのです。つまり、多くの人が他人の罪について読んだり噂したりするのが好きだということです。

コリント第一5：2は、教会の中で誰かが罪を犯したら、陰で笑うのではなく、悲しむべきだと教えます。

3. 次の適用ポイントは、すべての肉なる生き物と神が交わされた契約と、契約のしるしの虹についてです。

人間は罪深いのに、神はノアの時代に起きたような世界規模の洪水を二度と起こさないと約束してくださいました。私たちはこのことを感謝すべきです。

神は、もうひとつの契約を人類に与えられました。それは、神の御子イエス・キリストをとおして与えられた契約です。

神は、「わたしはこの世をあまりにも愛しているので、わたしのたったひとりの子イエス・キリストを遣わし、人類の罪の罰を負わせる」とおっしゃいました。

イエスが罪の罰を負って自分の身代わりに死んでくださったと信じるなら、その人は神に赦されます。自分の罪のせいで死ぬことを免れ、天国で永遠のいのちを受けます。

イエスを信じる人は、聖餐式を守ることで神が与えてくださったご契約を思い起こします。パンとぶどうジュースは、神の御子イエス・キリストの血が神の契約の証印であるという象徴です。

来週、イエスを救い主として受け入れ、愛している人がそのご契約を覚えるひと時を持ちます。あなたはイエスを信じてこのお方に信仰を置くという一歩をまだ踏み出していませんか。

今日、信じてはどうでしょう。